

在外研究員研究報告書

2018年10月10日 受付

所 属	GS研究科		氏 名	小山田英治	印
職 名	教授				
研究課題名	開発途上国における開発とガバナンス問題				
研究期間	2017年10月1日 ~ 2018年9月27日				
滞在期間 ・滞在地 研究調査先	滞在期間	滞 在 地	研究・調査先		
	2017年10月1日~2018年9月27日	イギリス	ケンブリッジ大学		
研 究 費	227 万円		研究成果の概要	別記 4,000字程度	
発 表	題 目 名	発表学術誌名 Vol. No.	発行年月日		
	Corruption in Police Sector in Japan	Asian Education and Development Studies, Emerald Press, UK	2018年11月予定		
	著 書 名	発 行 所 名	発行年月日		
	開発政治学を学ぶための61冊 (共著)	明石書店	2018年2月		
	国際開発百科事典(開発と汚職部分担当)	丸善出版	2018年12月予定		
	開発と汚職	明石書店	2019年2月予定		
表	演 題	講演学会名	講演年月日		
	Continuities and discontinuities of integrity and anticorruption performance in Philippines/Indonesia	The 36 th International Symposium on Economic Crime (by Jesus College, University of Cambridge)	2018年9月6日		

2018年10月4日
GS研究科 小山田英治

在外研究成果概要

2017年10月1日から2018年9月27日の在外研究期間中に達成した研究成果および諸活動は下記の通りである。

概要：

在外研究期間中の活動概要は、(1) 著書を含む、合計4本（単著1冊、共著1冊、ジャーナル1本、百科事典（1セクション））の論文または出版（予定分含む）、(2) 国際シンポジウムにおける学会報告1本、(3) 招へいによる講演（フィリピンとスリランカ）、(4) 科研事業の一環としての共同研究調査（イギリス）、(5) ホスト校における講義と院生指導補佐、並びに研修プログラムの企画と実施、(6) イギリス国内の研究機関や政府団体及び市民社会への調査活動。

研究論文等作成：

上記期間中に出版もしくは出版決定した研究論文は合計4本（単著1冊、共著1冊、英文ジャーナル1本、百科事典1セクション担当）となった。

- (1) 『開発と汚職』（2019年2月に明石書店より出版予定）

途上国における汚職問題を開発政治学の側面より取り上げ、現状と対応策についてまとめた学術書。学術振興会の学術図書補助と、同志社大学の学術図書補助制度を利用して2019年2月末に出版予定。

- (2) “Corruption in Police Sector in Japan,” *Asian Education and Development Studies*, UK
(2019年11月に英国 Emerald Publishing より E 出版予定)

日本の警察の汚職問題に対する取り組みと警察改革を分析した論文。

- (3) 『開発政治学を学ぶための61冊』（2018年2月に明石書店より出版）

開発政治学を学ぶために必読な図書61冊を選出し、各書評を加えたもの。科研事業の成果によるもの。共著。

- (4) 『国際開発百科事典』2018年12月に丸善出版社より出版予定。

国際開発学会編。「開発と汚職」セクション担当

講演、発表：

イギリス、フィリピン、スリランカにて講演および研究発表を行った。

- (1) Continuities and discontinuities of Philippines/Indonesia integrity and anticorruption performance, The 36th International Symposium on Economic Crime (ケンブリッジ大学他主催、9月6日) (企画セッションの企画・報告者及び座長として参加)

(2) “Promotion of Transparency and Accountability in Government”, University of the Philippines, Los Banos (6月8日：於フィリピン、ロスバニョス) フィリピン大学からの招へい。

(3) “Good Governance and Development”, University of Sri Jayewardenepura (6月13日：於スリランカ、コロombo) Sri Jayewardenepura 大学からの招へい。

その他活動：

(1) 2018年3月には科研(基盤B)分担者4名と共にケンブリッジ大学、オックスフォード大学、イギリス国際開発庁、シンクタンク、NGO等の専門家・学者と意見交換の場を設け、今後の科研事業に役立たせるための情報収集とネットワークを構築した。

(2) ケンブリッジ国際シンポジウムの依頼を受け、プログラムディレクターとして清廉性と反汚職に関する途上国政府職員向けの研修事業を企画実施した(8月31-9月1日)。

(3) またシンポジウムでは同志社大学ドクター生(4名-日本人、インドネシア人、アフガニスタン人。結果的にはアフガニスタン人は入国を拒否され2名のみ入国可能)を報告者として共同参加させた。いずれも同志社大学で修士課程を終えた、または博士後期課程の院生。同志社大学とMOUを有するフィリピン大学教員2名、そしてインドネシアハサヌディン大学教員も別途招き、共同セッションを行うことにより、同志社大学のプレゼンスも高めることを可能とした。

(4) ケンブリッジ大学院生向けの講義を行った(2月)

(5) 研究活動の一環として、ロンドン、ケンブリッジをベースに数多くの研究者や市民社会団体へのインタビューや意見効果の場を設けた。

(6) ホスト機関では、個人用デスクとPCを確保してもらったため、研究環境は良好、かつ他の研究者や院生との交流も活発に行うことができた。

在外研究期間中は当初予定していた以上の成果を伴うことができ、特にケンブリッジ大学関係者とのネットワーク作り、および彼らとの新たな共同研究の機会を設けられることは大変有意義なものとなった。またケンブリッジ大学の行政や内部制度(カレッジシステム)、学生の研究に対する姿勢や教員の指導メソッドなど、日本とは異なったシステムやカルチャーを新たに学ぶことは刺激になり、今後の同志社大学での学生指導にあたり大いに役立つことができると考える。今回を機会に、先方より来年度の国際シンポジウムでのセッション企画と実施を依頼され、今後も引き続き先方との共同研究および活動ができることとなっている。

(了)